サラリーマン最強戦略

カリスマ経営コンサルタントの教え

沢村　旭
Sawamura Shu

青山ライフ出版

サラリーマン最強戦略

カリスマ経営コンサルタントの教え

目　次

エピソード1　出会い　8
エピソード2　改心　28
エピソード3　妻の決意　38

エピソード4　男の影　44
エピソード5　家庭崩壊　48
エピソード6　危機一髪　53
エピソード7　出世の条件Ⅰ　56
エピソード8　左遷人事　79
エピソード9　出世の条件Ⅱ　86
エピソード10　内部告発　94
エピソード11　学習開始　99
エピソード12　出世の条件Ⅲ　103

エピソード13　一次試験　113
エピソード14　不正発覚　116
エピソード15　受験勉強　122
エピソード16　相談　125
エピソード17　顧客接待　131
エピソード18　二世誕生　136
エピソード19　出陣　138
エピソード20　ノーサイド　141
エピソード21　人事異動　143

エピソード22　最終日　146
エピソード23　別れ　149
あとがき　156

装幀　杉下城司

エピソード1　出会い

「まるで二十年前の僕だな……」
太く落ち着いた声が隣の席から聞こえた。

「んっ？　な、なんだ、この男は……」
ひどい脱力感と酔いのせいで、僕は体を起こすことができなかった。
「そんなに酔って、どうしたんだい？」
カウンターに凭れ掛って寝ている僕に、その男は話しかけてきた。顔を上げるのも面倒な僕は、カウンターに額を付けたまま答えた。
「すみません。みっともない姿をお見せしちゃって……。すぐ帰りますから、気にしないでください」

男は静かに続けた。

「折角カウンターで一緒になったんだから、少し話でもしないか？」

正直なところ、こんなにみっともない姿を誰にも見られたくなかった。だからこそ、こんな場末のＢＡＲに来たのだ。僕は、面倒臭そうに体を起こし、眠い目をこすりながら男の顔を見た。

見たことがない男だった。口元は少し微笑んではいるが、眼差しには突き刺すような鋭さがある。その白髪混じりの頭髪から、五十代半ばの会社員といったところだろう。仕立ての良さそうなスーツとセンスの良いメガネが知性を醸し出している。

「はい、じゃあ少しだけ……。かなり酔っぱらっているので。すみません」

男は、煙草の煙を大きく吐き出した。

「今日はどうしたんだい？　少し荒れていたみたいだが」

「実は、上司から今日怒鳴られまして……。むしゃくしゃして、ヤケ酒を飲んでいま

した」

「僕も昔はよくヤケ酒を飲んだものだよ……。それで、何があったんだい？」

昼間の出来事を思い出した途端、急に怒りが込み上げてきた。

「そうなんですよ。今日は本当にムカついたんです。僕が取引先へ行こうとした時に、席を立ったら、次長が『あの案件どうなった？』って突然訊くんですよ。それで『今から取引先へ行くので、帰って説明します』って言ったら、今度は『ばかやろー！　だからお前はダメなんだっ。きちんと報告してからにしろっ！』って怒鳴るんですよ。僕は訳が判らず、『でも時間が無いので、後でもいいですか？』って訊いたら、『勝手にしろっ』って言われて……。幾らなんでも、そのタイミングで、それも皆の前で言わなくてもいいじゃないですか……」

「……」

男は黙って聞いていた。